

「昭和 23 年の学制改革に遭遇した世代の『思い出の記』(その 8)」

《 相馬中学校に入学し相馬高校卒業となる等 》

垂れ下がった越中^{ふんどし}禪^(※1)高普 4 回卒 氏家 仁^(※2)

山上村(現相馬市山上)に生まれた。第二次大戦終結後に、然して、学力がある方ではなかったが、福島県立相馬中学校(相中)に入学を許可された。第二次大戦の終結が、学校教育を大きく混乱させたが、間もなく新学制が施行され福島県立相馬高等学校(相高)が新設された。相中がその併設中学校になった。併設中から相高に進み、昭和 27 年 3 月に卒業することができた。そして、馬城会員になった。

すでに還暦をすぎて、相中・相高時代を振り返ってみると、その大部分が忘却のかなたに消え去り、はっきりと覚えていないことに気付いた。このように印象や記憶が薄れてしまった遠い日々のことを微かな記憶を辿りながらかえりみることにした。

まず、教えを受け、世話になった恩師のことについてである。

現今に比べて、勤務年数が長く、生徒に強い印象と影響を与えた「名物先生」が多かった。そして、厳格ではあったが、人情味が感じられ、勤勉で卓越した識見をもっておられた。また、多くの先生が、生徒から親愛の意を込めて付けられた渾名で呼ばれていた。

その渾名には、ロッパ、銀猫、ブラック、ホワイト、ペリカン、ガムシ、ラスカル、チャイナ等といったものがあつた。それぞれどの渾名も先生の特徴がうまくとらえられていた。

次に、授業や学習に使った教科書についてである。

教科書は、授業や学習に使う極めて重要な教材の一つである。

第二次大戦終結直後の教科書は、これまでの教科書の大部分が新教育に適していないとして、墨で塗りつぶされた「黒塗り?の教科書」であつた。そのため、教科の系統性や範囲が不明瞭になり、その内容を理解するのは容易なことではなかった。その後、新しい教育方針に従って編集された「わら半紙の印刷物」が教科書として配られた。これを適当な大きさに切って使つたが、現在の教科書とは比べものにならないほど粗末なものであつた。

最後は、バレーボール部の活動についてである。

バレーボール部は、第二次大戦終結後の混乱期に創部されたと先輩からきいている。入部した頃は、庄司國男^(※3)先生が部長として、主に精神面を指導し、一方技術面については、吉田孔彦^(※4)先生が指導しておられた。

部員には、佐々木^(※5)、星(兄)、伊藤、塙^(※6)、鎌田、羽生^(※7)、鈴木(三)^(※8)、目黒^(※9)、斎藤(光)^(※10)などの錚々たる上級生諸兄がおられた。

それに、岡本^(※11)、寺島(康)^(※12)、斎藤、星(弟)、田中(義)^(※13)、小島^(※14)、長久保^(※15)、小林(重)^(※16)などの同級生諸兄も所属し活躍していた。

上級生諸兄は、熱心に部活動に勤しまれ立派な戦績を残された。その上、下級生の指導にも力を注がれ、バレーボール部の揺ぎ無い伝統を築かれた。このようにバレーボール部は、立派な指導者、熱心で指導力のある上級生、協力的で包容力のある同級生などで構成され人的面では恵まれていた。

しかし、体育館、屋外コートは、現在のように十分に整備されたものではなく、恵まれていなかった。それに、練習や試合に使うボール、トレーニング・ウェア、シューズ、パンツ、ランニングなどの運動用品も、品質が粗悪で、しかも、高価なものが多く、その上、手に入れるのは容易なことではなかった。こんな環境の中で、夢中になって白球を追い続けていたので、誰しも、ちょっとした珍事にでくわしたとしても不思議なことではなかった。

小生は、生まれつき左利きであった。そんなことで、フォワード・ライトのポジションを与えられ選手としてプレーすることができた。ある日、試合中に次のような珍事にでくわしたことがあった。

夢中になって、パス、トス、タッチ、ストップと動きまわっていた。そのうち、ふと、サポーター替わりにしっかりと締めていた筈の越中褌が、ショート・パンツからだらりと垂れ下がっていることに気付いた。

一瞬、どうしようかと迷った。直ぐに、キャプテンが、タイムをかけてくれたので試合が中断された。そして、チーム・メートの円陣の中で、だらりと垂れ下がった越中褌を締め直した。こんな苦い経験をしたことがあった。

相中・相高で、学業に勤しんだり、バレーボールを追い続けたりした遠い青春の日々が、ごく近い過去のように思えてならない。

(※1) 創立百周年記念誌『相中相高百年史』(1998(平成10)年7月発行)の「思い出の記」より。

(※2) 旧姓 荒、昭和27(1952)年卒、山上出身。

(※3) 昭和9(1934)年卒、相中第32回、中村出身。

(※4) 昭和17(1942)年卒、相中第40回、中村出身。

以下の(※)の方々は、姓だけの表記であったので、記念誌「相中相高八十年」、創立90周年「紅の旗」、「相中相高百年史」、創立110周年「紅の旗」の記述、並びに、「馬城会会員名簿」から、類推可能な方のみ、記述した。

(※5) 佐々木三夫：主将←「相中相高百年史」p.423、昭和24(1949)年卒、相高普第1回、八幡出身。

(※6) 塙 満←「相中相高百年史」p.423、昭和25(1950)年卒、相高普第2回、鹿島出身。

(※7) 羽生賢次←「相中相高百年史」p.423、昭和26(1951)年卒、相高普第3回、原町出身。

馬城かわら版第123号「相馬高校バレーボール部の生い立ち」。

(※8) 鈴木三夫、昭和26(1951)年卒、相高普第3回、八幡出身。

(※9) 目黒 博←「相中相高百年史」p.423、昭和26(1951)年卒、相高普第3回、駒ヶ嶺出身。

(※10) 斎藤光旦、昭和26(1951)年卒、相高普第3回、駒ヶ嶺出身。

以下(※11~16)の方々は、昭和27(1952)年卒、相高普第4回である。

(※11) 岡本侑宥、原町出身。

(※12) 寺島康信、駒ヶ嶺出身。

(※13) 田中義一、大野出身。

(※14) 小島孝正、飯豊出身、馬城かわら版第126号「思い出」。

(※15) 長久保允、中村出身。

(※16) 小林重信、鹿島出身。